



平和は、武力でなく「憲法9条」生かす対話で **日本共産党**

世代超え広がる反戦平和の声

イラン戦争とホルムズ海峡封鎖、ウクライナ戦争、大国アメリカ・ロシアなど武力で相手を従わせようとする戦争の惨禍が深刻に広がっています。激動する世界の「かつてなく厳しい安全保障環境」と繰り返す高市政権は、戦争国家づくりへ、目標期限を示す「9条改憲」を加速させています。今「平和をつくるのは、武力より、憲法9条を生かす対話で」と反戦平和の世論と運動が従来の枠を超え広がっています。



「つながろう 憲法生かして平和な世界を！ 2026 憲法大集会」

＝5月3日、東京臨海広域防災公園（しんぶん赤旗5月4日号より）

水戸「憲法フェスティバル」に800人

日本国憲法公布80年の5月3日全国各地で大規模な集會が開かれ、東京での「2026 憲法大集会」には昨年を上回る5万人、茨城水戸でも「憲法フェスティバル」が開かれ、800人が参加しました。主催者代表田村武大氏が、「高市政権は来年までに改憲のメドをつけると宣言したかつ

てない危機のもとで、改憲反対の署名を集め追い詰めていこう。」と呼びかけました。

午後は、日本共産党山添拓参議院議員と沖縄の風高良沙哉参議院議員の対話講演しました。



「憲法フェスタ」 5月3日 水戸市千波公園

5/2 取手 日本共産党議員団「憲法街宣」

アメリカのイラン攻撃とそれへの高市政権の対応を批判。「戦争を止める力9条改憲の動きが強まる中で、軍事に頼らず憲法9条生かす外交で平和をつくろう」と、平和主義など憲法の3大原則など訴えました。

強風の中での訴えに、道行く人々から手を挙げるなど温かい応援が寄せられました。



5月3日を前に党市議会議員団そろって「憲法街宣」＝2日、取手市内各地で左から加増・本田・遠山議員

台湾有事想定で 軍事訓練日本全土に

高良氏は、「沖縄では台湾有事を想定した軍備拡大や訓練を行い日本全土に広がっている。中国脅威論が言われるが、中国は簡単に軍事作戦しない。対話を重ね、信頼関係を作ることが大切。憲法9条があるから信頼されている。9条守ることを最優先課題にしよう。」と力説しました。

憲法守り生かすための仲間を増やそう

山添氏は「毎年厳しい安全保障環境と言って軍事費を増やし武器輸出まで解禁している。対話でしか平和は守れない。

どうすれば平和を守れるか考えて合意形成していくことが大切。国会では圧倒的多数が改憲とい

う点で一致しているが、憲法を守り生かすために行動する仲間を増やしていけば、大きな力になる。」と強調しました。

最後に全員で「守れ9条」「軍拡増税まっぴらごめん」と力強くコールしました。

私たちは 戦争につながる憲法改悪に反対します
——憲法9条改悪に反対する請願署名——

にご協力下さい

署名用紙は
こちらから→



市議会開会に臨む

6月定例取手市議会（6月5日～19日予定）

国政では、医療や介護など社会保障の切り捨てが次々計画されています。国・自治体の責務は、地方自治法と憲法25条の理念にのっとり運営されるものです。不要・不急の大型開発への無駄遣いにメスを入れ、市民が安心して暮らせる取手市へ皆さんの声を反映できるよう、議会に臨んでいきたいと思ひます。



市議会議員 加増みつ子

新年度が始まり最初の市議会です。予算執行がどのようにされていくのか、市民にとってどのように市政運営をしていくのか、しっかりチェックし、市民の暮らしを最優先に、地域の要望をしっかり届けていきます。また、国政での医療・福祉の改悪や平和の問題について、地方自治から市民・国民を守る立場で臨んでいきます。



市議会議員 本田かずなり

取手市の各種計画案へのパブリックコメントには、専門的な指摘や適切な提案が多数寄せられ、私自身大変学ばせて頂いています。市民の声が生かされる市政へ、各種審議会や委員会等への「市民公募制」の取り入れを求めていきます。民間保育園の保育士手当支給に続き、介護職員への手当支給等、職員の処遇改善を求めていきます。



市議会議員 遠山ちえ子

議会報告と懇談会
4月19日、福祉交流センター



日本共産党議員団が議会ごとに各地で行う議会報告と懇談会では様々な声が寄せられます。

4月の懇談会では

- ごみ収集が分かりにくく混乱。
- コミバス等公共交通が不便で外出に苦勞。
- 取手駅西口広場の車の一時待避所スペースを広げて。
- 下高井の埋め立てで環境が心配など・・・

皆さんから寄せられた要望の実現に力を合わせ実現に努めます。

JR取手駅東口側に 1億円のトイレ

西口トイレ 閉鎖後も借地料は払い続ける

皆さんの念願だった取手駅東口側に、約1億円で公衆トイレが整備され4月19日から使用開始に。一方で西口公衆トイレは5月1日から閉鎖。これまで、西口駅前整備と合わせて、「西口公衆トイレの改修」を求める加増みつ子議員に、「交通広場の整備後、改修を検討する」との市の答弁を翻したものです。

JRの線路敷下の西口公衆トイレは「改修困難」と、他の活用もなく閉鎖。年間98万2000円の借地料は、今まで通りJRに払い続けることとなります。

共産党市議団は、4月24日「取手駅西口公衆トイレ閉鎖の中止・存続を求める緊急要望書」を市長に提出しました。



閉鎖された西口トイレ



新設された東口側公衆トイレ

どうなる どうする 行き詰る桑原開発

イオンのみの計画13年 取手市4億8,900万円投入

「桑原地域開発」は、「関東最大級の賑わい施設」を「取手の求心力を担う賑わい拠点づくり」として、2013年度取手市予算(「都市計画見直し調査業務委託」5,355,000円)に始まり、市は26年度まで4億8,900万円を投じました。

市が推進する65haの桑原地域開発に「イオンが来る」との宣伝に魅力を感じ移住の市民も、また、国策の誤りから営農が窮地に立たされ農地



田植えを終えた桑原開発予定区域の水田、遠方に筑波山=5月10日撮影

を手放さざるを得なくなった一部農家には、土地利用転換への期待もありました。

イオンの半減縮小 新提案も見通せず

2025年7月土地区画整理準備組合に対し、事業協力者(イオン)は、経済情勢変動によって、当初の地区全体65ha一括整備を半減以下に縮小し、業務全般をゼネコン等に委託する業務代行方式導入を提案。準備組合はイオンの要求に応じ、年度内の業務代行選定を目指したものの、その見通しもつかず、事業は漂流状態が続いています。

情報公開と 事業の見直しを

スタートから13年経過し、激変する経済、イオンの事業規模半減縮小提案後も、なお先行きは不透明です。これ以上の事業空白は地権者にとってはもちろん、取手市財政及び産業・まちづくり市政全般への否定的影響は避けられません。取手市及び準備組合は現状を考慮し、事業全般の市民への情報公開、事業計画の抜本的見直しの決断を行うべきではないでしょうか。

安全・快適な街 皆さんと力合わせて

本田かずなり

戸頭地域・294号線までの道路補修



戸頭地域のふれあい道路改修は本年度で終了します。一日の交通量は15,000台以上もあり、改修費用は取手市の予算から約7億円でています。広域化するふれあい道路の県への移管を求めています。ずっと地域から要望があった国道294号線から戸頭公園に続く道路も本年度、国道294号線までの道路補修がおこなわれます。

スーパーや商業施設が増え、住宅街を走る交通量が増加している戸頭地域の通学路や歩道がない道路の安全対策にも取り組んでいます。



294号線から戸頭公園に続く道路補修が予定されています。

赤羽直一議員に対する議員辞職勧告決議

議事中心のストリーミング

5月1日臨時議会で、「赤羽直一議員に対する議員辞職勧告決議案」が、全会派一致で提出され可決されました。「議会改革度全国上位」を誇ってきた取手市議会での、本会議中にスマホでゲームをしていた議員への辞職勧告決議は、一議員の問題

にとどまらず、取手市議会改革の本質も問われることとなります。

日本共産党は、「地方自治法と議会基本条例に恥じない市議会、取手市議会の品位を重んじ、議員としての責務を果たすべき」と決議案に賛成しました。